

環境活動レポート

自動車整備業界の環境先進企業を目指します



SGモーターズ株式会社

対象期間：2011.03.21 ～ 2012.03.20

発行年月日：2012.10.21（第3版）



SG モーターズ株式会社は、佐川急便株式会社を中核企業とする SG ホールディングスグループの一員として、グループ企業並びに一般顧客へ車両整備・車両販売・ボディ製造を展開しております。

当社は全国 24 ヶ所の直営自動車整備工場をベースに年間 35 万台の整備・点検を実施しているほか、新車・中古車販売はもとより貨物車両や特装車両に必要となるボディ製造も自社ボディ製造工場で手がけております。このほか、トータルにお客さまのカーライフをサポートすることをモットーに、旧車両のリメイクや自動車保険・レッカーサービスなども行っております。

また近年では、今までの車両製造ノウハウを活用して飲料運搬に使われるボトラーカー製造にも新規参入し、事業拡大に向けた新たな取り組みも開始しております。

今後も事業基盤である自動車整備業を中心に、クルマに関する様々な分野の拡大に取り組んで行く中、環境分野においても地球規模の活動に貢献することを約束するために、エコアクション 21 に取り組むことといたしました。

この取り組みにより、より多くのお客さまに高品質のサービスを提供するとともに、グループ企業における環境分野でのトップランナー、また自動車整備業界における環境先進企業となれるよう、従業員一同邁進して参ります。



SGモーターズ株式会社
代表取締役社長 谷本 育生

SGホールディングスグループ 倫理・行動規範

私たちは、「SGホールディングスグループ行動憲章」を具体的に表現した本倫理・行動規範に則り行動します。

1. お客さまの期待とともに、私たちはお互いに発展を続けます。
2. 従業員の期待とともに、私たちはお互いに明るい職場をつくります。
3. 地域社会の期待とともに、私たちはお互いに歩み続けます。
4. 株主・取引先の期待とともに、私たちはお互いに信頼を築きます。

目次

SG Motoreve

1.	SGホールディングスグループについて	3
2.	SGモータースについて	4
3.	SGモータース事業概要	5
4.	環境方針	6
5.	エコアクション21推進体制	7
6.	統括環境目標（全店・工場）	8
7.	環境活動計画	10
8.	事業活動にかかわる主な環境関連法令	11
9.	環境活動計画の取り組み結果と評価	12
	電力使用量の削減による二酸化炭素排出量の削減	
	燃料使用量の削減による二酸化炭素排出量の削減	
	廃棄物排出量の削減	
	総排水量の削減	
	化学物質使用量の削減	
	グリーン購入の推進	
	環境啓発活動の推進	
10.	車両の開発と整備体制の構築による環境保全活動	19
	環境に優しい「ECO車体」の展開	
	環境負荷低減のための技術を搭載したポトラカー「FVV」の開発	
	3温度帯管理機能搭載車の開発	
	廃棄車両再生のためのコンバート電気自動車の開発	
	3輪電気自動車「雷駆T3」専用ボディの開発	
	車両のメンテナンス	
	塗料使用時の適正管理	



11.	施設の展開と設備投資による環境対策	23
	雨水利用システム導入による水の有効利用	
	廃水処理システムによる水質保全活動	
	廃油を活用した作業場の環境改善	
	使用水量の抑制	
	LED照明の活用	
	ライトダウンの恒常的な実施	
12.	資源の有効活用と循環型社会を目指した取り組み	25
	エコユニフォームの採用	
	使用済み現場作業服のサーマルリサイクル	
	ゴミの分別の徹底	
	安全靴のリサイクル	
	シンナー塗料の再生利用	
13.	環境啓発活動	27
	グリーン購入大賞の受賞	
	クリーンアップの実施	
	環境絵日記コンクールの実施	
	環境モデル店コンクールの受賞	
	お客さま向け省燃費研究会の開催	
	エコ安全ドライブに対する取り組み	
14.	社会貢献活動	29
	被災地へのトラックの寄贈	
	「移動式ちびっ子SGランド」の開催	
	車両整備技術研修生の受け入れ	
	自動車整備業界の人材育成支援活動	
15.	代表者による全体評価と見直しの結果	31



SGホールディングスグループについて

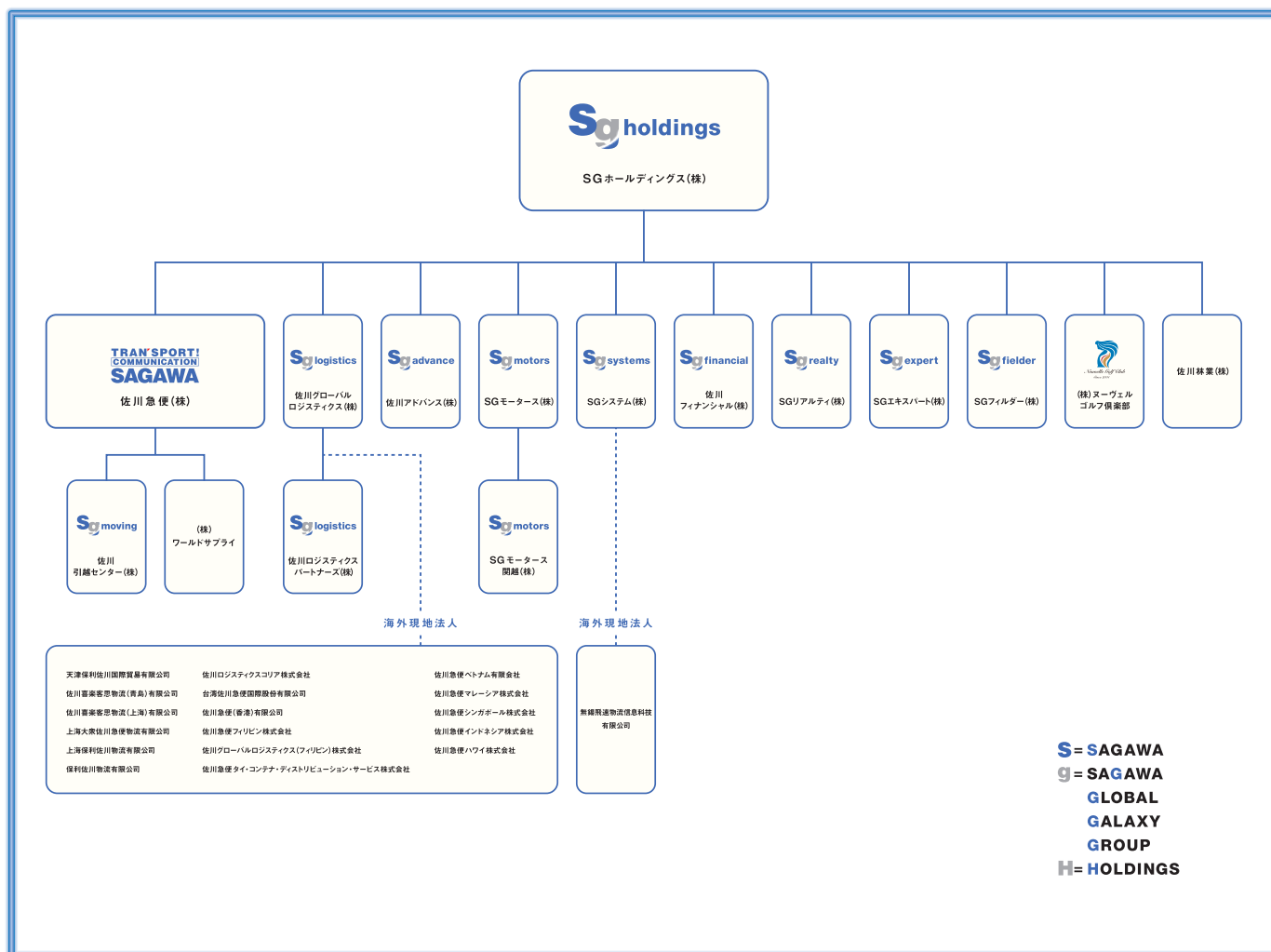
SG Moterevo

■ SGホールディングス会社概要

商 号	SGホールディングス株式会社（SG HOLDINGS CO., LTD.） 佐川急便を中核とする持株会社で、国内事業会社15社 国外事業会社18社を統括する
設立日	2006（平成18）年3月21日
事業内容	グループ経営戦略策定・管理並びにそれらに付帯する業務
所在地	京都市南区上鳥羽角田町 68 番地
代表取締役会長兼社長	栗和田 榮一
資本金	113 億 8,300 万円
売上高	8,943 億円
決算期	3月20日

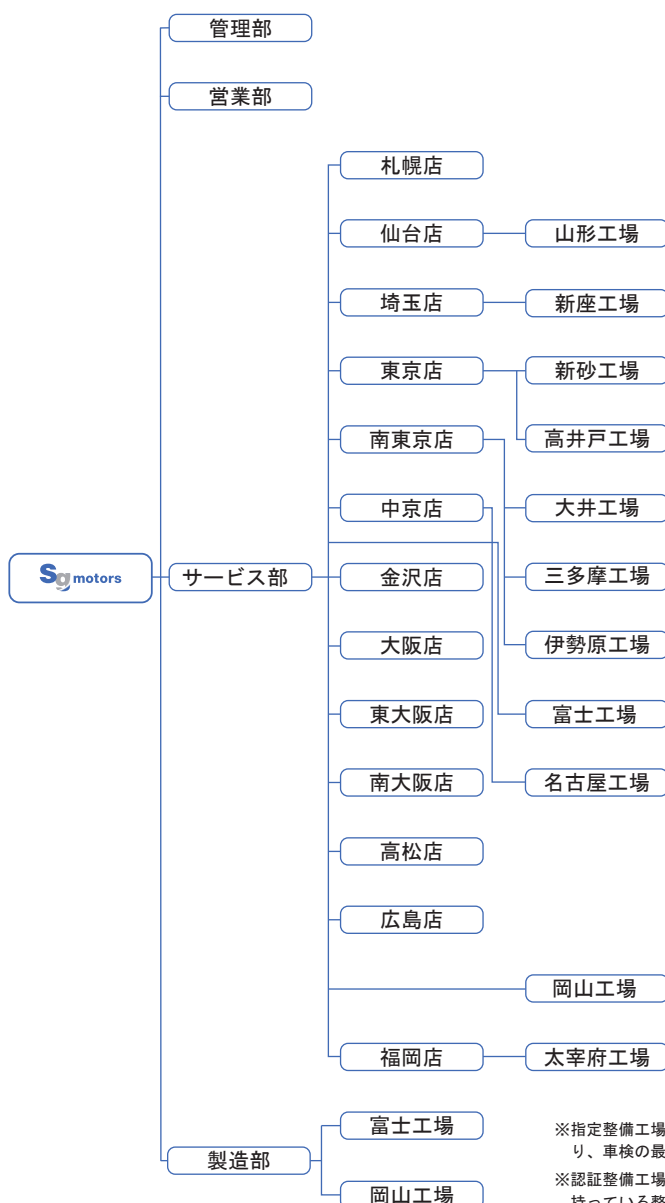


■ SGホールディングスグループ事業体制



■SGモータース会社概要

商 号	SGモータース株式会社
設立日	1980 年（昭和 55）5 月 1 日
事業内容	自動車販売・整備、自動車ボディ製造・販売など“クルマ”にかかわる事業
本社所在地	大阪市大正区平尾 1 丁目 4 番 38 号
代表取締役社長	谷本 育生
資本金	1,000 万円
売上高	31,254 百万円（2011 年度）
従業員数	677 人（2012 年 10 月 20 日 現在）
事業所数	13 支店・24 整備工場・2 ボディ製造工場



■本社

本社(大阪) 大阪府大阪市大正区平尾1丁目4番38号
 本社(川崎) 神奈川県川崎市川崎区池上町2-4

■支店(※指定整備工場)

札幌店 北海道札幌市白石区流通センター5丁目573番5号
 仙台店 宮城県仙台市宮城野区福田町南1丁目9番3号
 埼玉店 埼玉県岡市篠津914-3
 東京店 千葉県市川市二俣新町22-5
 南東京店 神奈川県川崎市川崎区池上町2-4
 中京店 愛知県小牧市三ツ渚東阿原1447-1
 金沢店 石川県金沢市木越町ト80
 大阪店 大阪府大阪市大正区平尾1丁目4番38号
 東大阪店 大阪府東大阪市東鴻池町1丁目6番48号
 南大阪店 大阪府泉大津市板原町4丁目19番29号
 高松店 香川県高松市牟礼町牟礼字久通3720-438
 広島店 広島県広島市南区出島2丁目10番31号
 福岡店 福岡県福岡市東区多の津2丁目10番2号

■工場(指定整備工場)

名古屋工場 愛知県名古屋市中区砂美町82
 太宰府工場 福岡県太宰府市水城2丁目18番23号

■工場(※認証整備工場)

山形工場 山形県天童市石島居1丁目4番8号
 新座工場 埼玉県新座市池田2丁目1番5号
 新砂工場 東京都江東区新砂2丁目2番8号
 高井戸工場 東京都杉並区高井戸西1丁目1番29号
 大井工場 東京都品川区八潮3丁目2番43号
 三多摩工場 東京都昭島市拝島町4丁目8番1号
 伊勢原工場 神奈川県伊勢原市下落合352-4
 富士工場 静岡県富士市中丸9-2
 岡山工場 岡山県勝田郡勝央町黒坂897

■工場(ボディ製造工場)

富士工場 静岡県富士市中丸9-2
 岡山工場 岡山県勝田郡勝央町黒坂897

※指定整備工場：一般に「民間車検場」と呼ばれるもので、陸運局にある車検ラインと同等の設備があり、車検の最終テスト（完成検査）を行う資格がある整備工場

※認証整備工場：車検や定期点検のほか、エンジンやブレーキなどの重要部品の分解整備を行う資格を持っている整備工場。ただし車検の完成検査は陸運局で行う必要がある

整備（点検・車検・整備）

SGホールディングスグループで稼働する大型車両から軽自動車など、全メーカーの約30,000台に及ぶ車両の点検・整備・車検を、全国23ヶ所の自社整備工場と約280ヶ所の協力工場で365日24時間体制で実施しています。

**新車・中古車販売**

小型車両から大型車両などの貨物自動車のほか、自家用車や軽自動車など全メーカー全車種の販売を行っています。同じく中古車両の販売についても、当社のネットワークによりお客さまの要望された車両を素早く提供することが出来ます。またご要望があれば中古車両の再架装も可能です。

**ボディ製造**

自社ボディ製造工場では、小型車両や大型車両のボディ製造を行うほか、FVVなどのボトラカーや特殊車両など様々な車両のボディ製造を行います。また、環境に配慮したE C Oボディの開発により100%再生の内装材やノンフロン発泡断熱材を利用した地球にやさしい車体工法も実現しています。

**フォークリフト・特装車**

フォークリフトなどの荷役車の扱いも可能です。各工場では資格を有した専門の整備員を配置し、定期点検やメンテナンスを行うことが出来るため、迅速な対応によりお客さまの機動力を更に高めます。また、トレーラなど特装車両についても指定サービス工場として取扱が可能です。

**緊急時のサポート**

お出かけ時や業務途上で発生したお車の故障や事故の際には、24時間365日全国どこへでも1時間以内に駆けつけることが可能なレッカーサービス「ファーストコール24」を展開しています。その他、車両に関する自賠責保険や各種任意保険等にも対応しています。

**開発**

製造部には新商品や新技術の開発を目指し開発部門を有しています。お客さまの要望された車両の開発を手がけるほか、材料試験や温度試験など様々な角度による検査検証を行い、より良い製品による、安全と安心を提供します。

**2012年5月 女性整備チーム「SGMレディース」発足**

SGホールディングスグループでは、グループ全体で女性活躍推進プロジェクト「わくわくウィメンズプロジェクト」を進めています。

その一環としてSGモータースでは自家用車を運転する女性を対象にフロント業務から自家用車の点検・車検など整備業務を女性スタッフのみで運営し、女性ドライバーが気軽に立ち寄り、車に関する様々な相談ができる新しい形のカーステーションを計画しています。

2012年度は「SGMレディース」一期生として新入社員2名を含む3名で立ち上げ、現在大阪店で技術研修を含めた実務の習得を行っています。



〈基本理念〉

当社は、自動車整備事業を営み、お客様に「安全」、「安心」を提供することをモットーとして、自動車業界の「雄」となるべく、更なる企業の拡大に努めてまいります。また、環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、企業の模範となるべく、自主的、積極的に行動します。そのため、全従業員一致団結して次の基本指針を実践するために、責任をもって行動します。

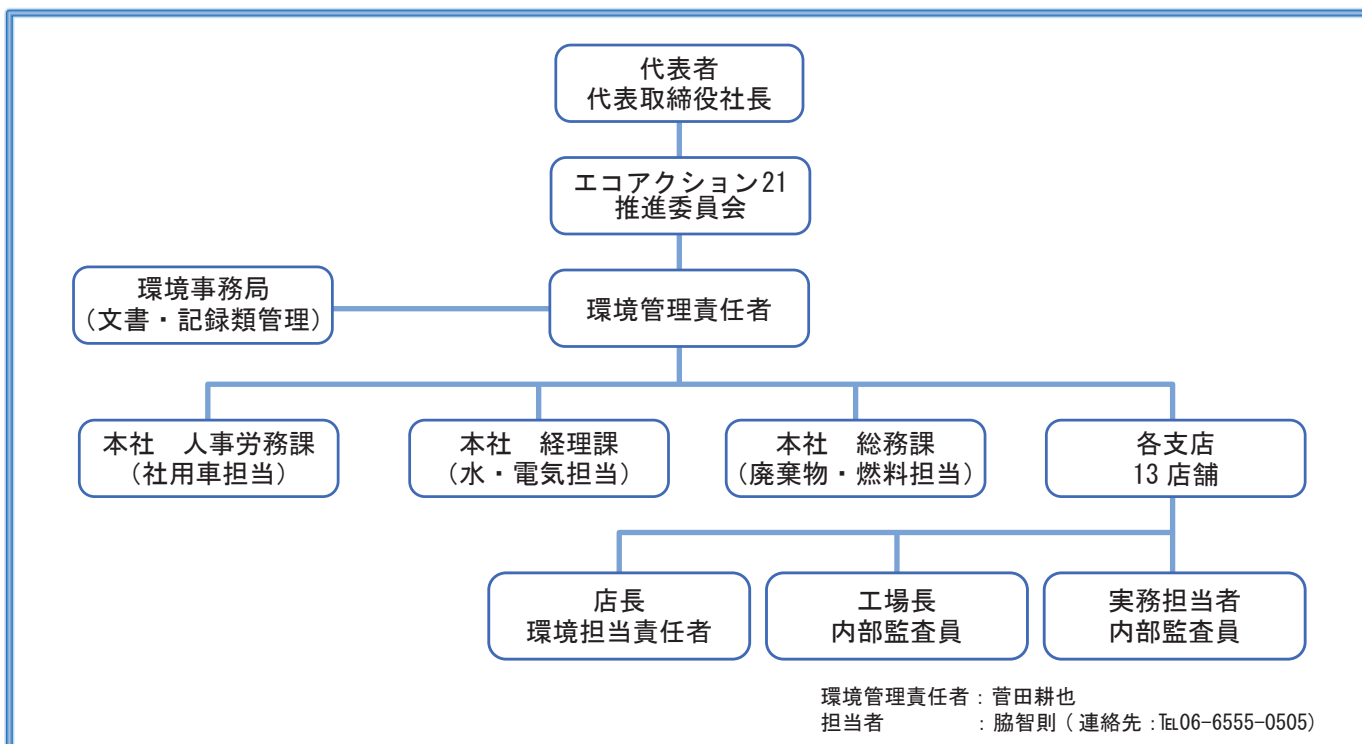
〈基本指針〉

1. エコアクション 21 に基づく環境経営システムに取り組み、環境関連の法令、条例等の規制事項を遵守するとともに、地域・業界・顧客の満足と信頼の獲得を図ります。
また、グリーン購入や地域清掃などの環境活動についても計画的に実施します。
2. 取り組むべき事項として次の重点項目を設定し、環境目標と活動計画を定め、必要に応じて見直すことによって、環境負荷の継続的改善を図ります。
 - ①電力や燃料使用量の削減により二酸化炭素排出量の削減を図ります。
 - ②廃棄物の分別などにより発生抑制とリサイクルを推進します。
 - ③事務所や工場での節水により、用水使用量の削減を図ります。
 - ④使用する塗料や溶剤などの効率的使用により、化学物質の削減を図ります。
3. 自社が行う活動やサービスの提供に関して、環境配慮を行います。
4. 全従業員に、この環境方針を周知し公表します。

2010 年 7 月 15 日
S G モーターズ株式会社
代表取締役社長 谷本 育生

当社は大阪本社を中心に北海道から九州まで 24 ヶ所の事業所で営業展開しており、全国体制でエコアクション21を推進して参ります。

各支店では店長を環境担当責任者とし、整備部門の責任者である工場長を環境内部監査員として活動します。



■平成 23 年度認証取得範囲

(1) 登録組織名 SG モーターズ株式会社

(2) 平成 23 年度認証取得店

	本社	本社営業部	札幌店	仙台店	埼玉店	東京店	福岡店
従業員	36 名	49 名	27 名	45 名	52 名	58 名	28 名
延べ床面積	3117.5 m ²	4214.2 m ²	1426.7 m ²	2285.3 m ²	1740.3 m ²	2555.4 m ²	953.7 m ²
	南東京店	中京店	金沢店	大阪店	南大阪店	高松店	広島店
従業員	59 名	31 名	19 名	41 名	34 名	18 名	18 名
延べ床面積	4214.2 m ²	2574.3 m ²	674.8 m ²	3117.5 m ²	1546.0 m ²	1973.7 m ²	576.0 m ²

(3) 平成 24 年度期認証取得予定事業所

東大阪店・名古屋工場・太宰府工場・富士工場・岡山工場

(4) 平成 25 年度期認証取得予定事業所

山形工場・新座工場・新砂工場・高井戸工場・大井工場・三多摩工場・伊勢原工場

(5) 適用業務範囲

自動車整備業・トラック車体製造業・新車販売業・中古車販売業・損害保険代理業



全店統括環境目標

eco move

エコアクション 21 取得に向けた取り組みを平成 22 年度から開始しました。
そのため目標設定のための基準値は、平成 21 年度の実績をベースに設定しています。

平成 22 年度の実績開始時は、平成 21 年度を基準年度（旧）として、1 年ごとに 1% を上乗せをした削減目標値を掲げ、取り組みを実施した。

取組が順調に推移していることから、平成 24 年度の実績目標値は、より実践的な対応を行うため、平成 23 年度の実績結果の 3% 減を目標基準値として設定した。電力については、節電強化の観点から、平成 23 年度の月別実績値に 3% を減らした目標値として設定した。また平成 23 年度から取組を開始した東大阪店については、同年度の前半 6 か月実績をベースに設定し、個別に表現した。

※電力の排出係数：平成 21 年 12 月 28 日環境省公表の各店が所在する電力会社の数値
（「9-1 環境活動計画の取組結果と評価」を参照）

■基準年度（21 年度）実績値

取組例【東大阪店】

二酸化炭素排出量	電力		購入量	3132.0 千 kWh	74.26 千 kWh	
			二酸化炭素排出量	1358.1 t -CO ₂	26.36 t -CO ₂	
	燃料	ガソリン	購入量	306.8 kl	10.67 kl	
			二酸化炭素排出量	712.4 t -CO ₂	24.76 t -CO ₂	
			軽油	購入量	115.5 kl	2.69 kl
				二酸化炭素排出量	303.2 t -CO ₂	7.07 t -CO ₂
総排出量			2373.6 t -CO ₂	58.19 t -CO ₂		
廃棄物排出量	産業廃棄物			36.7 t / 月	1.07 t / 月	
	一般廃棄物			12.8 t / 月	1.73 t / 月	
排水量				29.0 千m ³	0.70 千m ³	
化学物質使用量				42.3 t	2.17 t	

※東大阪店については平成 23 年度前半 6 ヶ月の実績

■目標値及び実績値

環境目標			22 年度	23 年度		24年度	25年度	26年度	単位		
	削減目標値(基準年度比)		通年	通年	目標 【前半 6 ヶ月】	実績 【後半 6 ヶ月】	(現)基準年度 -3%	-4%		-5%	
取組例【東大阪店】											
	電力	購入量	3100.7	3136.2	72.77	76.60	2816.9	2787.9	3475.1	千 kWh	
		二酸化炭素排出量	1344.5	1354.7	25.84	27.20	1218.2	1205.6	1467.8	t -CO ₂	
二酸化炭素 排出量の削減	燃料	ガソリン	購入量	303.8	376.4	10.46	9.00	321.2	318.4	364.8	kl
			二酸化炭素排出量	705.2	873.9	24.27	20.79	747.4	739.3	847.4	t -CO ₂
		軽油	購入量	114.4	112.6	2.64	1.70	103.4	102.3	109.3	kl
			二酸化炭素排出量	300.1	295.6	6.93	4.35	271.3	268.5	286.9	t -CO ₂
総排出量			2349.9	2499.0	57.03	52.60	2473.5	2448.0	1134.3	t -CO ₂	
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物		36.3	37.0	1.05	1.30	45.5	45.0	36.6	t / 月	
	一般廃棄物		12.7	14.2	1.70	1.70	10.0	9.9	18.1	t / 月	
総排水量の削減			28.7	31.2	0.71	0.72	23.9	23.7	33.4	千㎡	
	雨水利用の導入		雨水利用	雨水利用	雨水利用	雨水利用	雨水利用	雨水利用	雨水利用		
化学物質使用量の削減			41.9	40.2	2.13	1.50	36.9	36.5	40.7	t	
グリーン購入の推進	エコ商品使用基準年度に追加		2 種類	2 種類	2 種類	2 種類	2 種類	3 種類	4 種類		
事業活動に係る 環境配慮	エコ車体の開発と製造		維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持		
	清掃活動		2 回/年	2 回/年	2 回/年	2 回/年	2 回/年	2 回/年	3回/年		

6-2 工場統括環境目標

環境部

エコアクション 21 取得に向けた取り組みを平成 23 年度から開始しました。

そのため目標設定のための基準値は、平成 23 年度の前半 6 ヶ月実績をベースに設定しています。

全社の平成 21 年度を基準年度に合わせ、1 年ごとに 1%を上乗せした削減目標値を掲げ、取り組みを実施する

■基準年度（23 年度前半 6 ヶ月）実績値

取組例【富士工場】

二酸化炭素排出量	電力		購入量	481.0 千 kWh	193.8 千 kWh
			二酸化炭素排出量	235.5 t -CO ₂	81.0 t -CO ₂
	燃料	ガソリン	購入量	13.6 kl	3.1 kl
			二酸化炭素排出量	31.6 t -CO ₂	7.3 t -CO ₂
		軽油	購入量	14.9 kl	1.4 kl
			二酸化炭素排出量	39.2 t -CO ₂	3.6 t -CO ₂
	総排出量			306.4 t -CO ₂	91.9 t -CO ₂
廃棄物排出量	産業廃棄物		19.8 t / 月	12.0 t / 月	
	一般廃棄物		1.5 t / 月	0.1 t / 月	
排水量				2.82 千m ³	1.8 千m ³
化学物質使用量				3.99 t	1.9 t

■目標値及び実績値

環境目標			23 年度				24年度	25年度	26年度	単位	
	削減目標値(基準年度比)		目標【前半6ヶ月】 -2%	実績 【後半6ヶ月】	目標 【前半6ヶ月】	実績 【後半6ヶ月】	-3%	-4%	-5%		
取組例【富士工場】											
	電力	購入量	471.4	522.1	189.95	194.25	973.1	963.0	953.0	千 kWh	
		二酸化炭素排出量	230.8	261.0	79.40	81.19	481.7	476.7	471.7	t -CO2	
二酸化炭素 排出量の削減	燃料	ガソリン	購入量	13.4	15.4	3.07	3.80	28.2	27.9	27.6	kl
		二酸化炭素排出量	31.0	35.7	7.14	8.83	65.4	64.7	64.0	t -CO2	
		軽油	購入量	14.6	15.0	1.36	2.15	29.0	28.7	28.4	kl
		二酸化炭素排出量	38.4	39.3	3.56	5.64	76.1	75.4	74.6	t -CO2	
	総排出量		300.2	336.1	90.10	95.66	623.2	616.8	610.3	t -CO2	
廃棄物排出量 の削減	産業廃棄物		19.4	16.7	11.73	10.03	17.7	17.5	17.4	t / 月	
	一般廃棄物		1.486	1.37	0.05	0.05	1.4	1.4	1.4	t / 月	
総排水量の削減			2.77	2.81	1.80	1.90	5.5	5.4	5.3	千㎡	
	雨水利用の導入		雨水利用	雨水利用	雨水利用	雨水利用	雨水利用	雨水利用	雨水利用		
化学物質使用量の削減			3.91	3.50	1.84	1.80	7.3	7.2	7.1	t	
グリーン購入の推進	エコ商品使用基準年度に追加		2 種類	2 種類	2 種類	2 種類	2 種類	3 種類	4 種類		
事業活動に係る 環境配慮	エコ車体の開発と製造		維持	維持	維持	維持	維持	維持	維持		
	清掃活動		2 回/年	2 回/年	2 回/年	2 回/年	2 回/年	2 回/年	3回/年		

7

環境活動計画

SEMOTIVE

環境目標を達成するために全社的環境活動計画を次のとおり定め、全店舗共通の活動計画としています。

環境目標		取組事項
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	エアコン温度管理の徹底
		事務所、工場の照明管理の徹底
		事務機・車両整備機器等の節電
		離席中のパソコン画面OFF
	燃料使用量の削減	フォークリフトの経済的運転
		車両メンテナンスの徹底
		エコドライブの徹底
		低燃費車の導入検討
廃棄物排出量の削減	廃棄物の排出抑制	リサイクル率の向上
	資源化の推進	社内廃棄物の分別徹底
総排水量の削減	排出量の抑制	有価物の排出割合の向上
		散水・洗車節水の徹底
		手洗い時の節水の徹底
化学物質使用量の削減	化学物質使用量の削減	雨水利用の導入
		塗料缶、保管容器の点検
		スプレーガンの吐出量の適正化
グリーン購入の推進	グリーン購入の拡大	塗料の必要量確認、効率的使用
		エコマーク付事務用品の選択的使用
環境活動の推進	製品及びサービスに関する環境配慮	エコ車体の開発と製造・リサイクル率80%維持
	コミュニケーションと地域貢献活動	部門間のコミュニケーションの推進
		関係企業とのコミュニケーションの推進
		地域活動への積極的参加



事業活動にかかわる主な環境関連法令

SEMeTeVe

■当事業にかかわる主な環境関連法令

事業活動に関して対象となる環境関連法令及び施設等は次のとおりで、随時インターネットなどで改正状況をチェックし、年1回の遵守評価を実施しています。

法令名称	対象施設・作業
廃棄物処理法	特管産廃の排出
自動車NOx・PM法	適合車等の標章の表示
化管法 第5条第2項(PRTR法)	吹き付け塗装施設
大気汚染防止法 環境保全条例	吹き付け塗装ブース
水質汚濁防止法	吹き付け塗装施設
下水道条例	自動車両洗浄施設
騒音規制法 振動規制法	空気圧縮機:3.75KW⇒条例届出書 7.5KW⇒法届出書
資源有効利用促進法	廃棄時に法定の回収ルートで処置
家電リサイクル法	テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコンの廃棄時
自動車リサイクル法	新車購入時など 顧客自動車廃棄時
フロン回収破壊法	整備自動車 業務用エアコン室外機
消防法	屋内消火栓・火災報知機・消火器・化学消火器
市火災予防条例	油圧機作動油、同廃油 有機溶剤 消防署への届出
道路交通法	免許証の携帯と有効期限 定員11人以上の車両1台以上 その他の車両5台以上
貨物自動車運送事業法 道路運送車両法	安全運転管理者補20台以上 積載制限の遵守 国土交通大臣の許可 車検証の携行

■環境法令の遵守評価

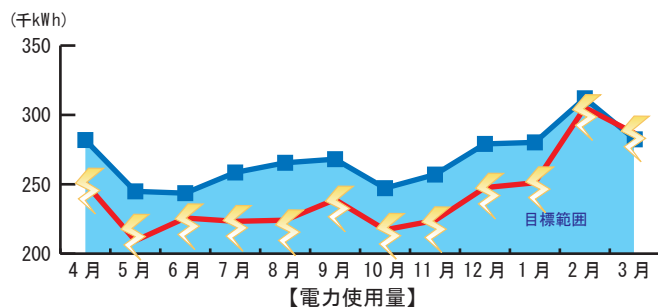
上記、当事業による主要な環境関連法規などの違反はありませんでした。
また関係当局からの違反などの指摘は過去3年間なく、訴訟などもありませんでした。

※全営業店の内、東大阪店については、2011年4月～2011年9月実績（平成23年度）を基準年度として2011年9月～2012年3月実績で評価した。工場についても同様評価とした

■電力使用量の削減による二酸化炭素排出量の削減

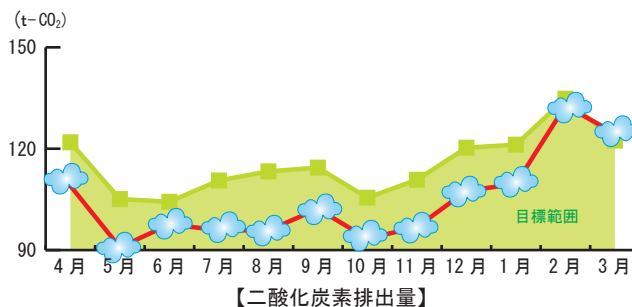
排出係数（平成21年12月28日に環境省が公表する排出係数）【北海道電力】0.588【東北電力】0.469【東京電力】0.418【中部電力】0.455【北陸電力】0.550【関西電力】0.355【中国電力】0.674【四国電力】0.378【九州電力】0.374

■全営業店



期間内目標値
3220.5 千kWh 以下

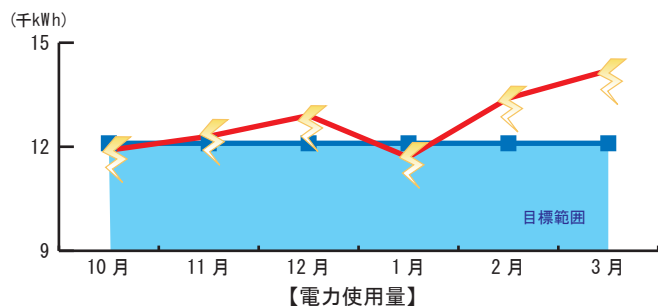
期間内実績値
2904.1 千kWh



期間内目標値
1384.6 t-CO₂ 以下

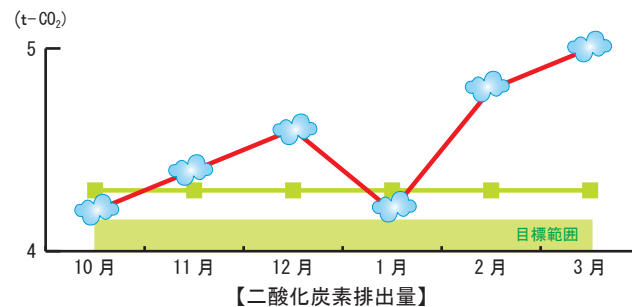
期間内実績値
1255.9 t-CO₂

■東大阪店



期間内目標値
72.8 千kWh 以下

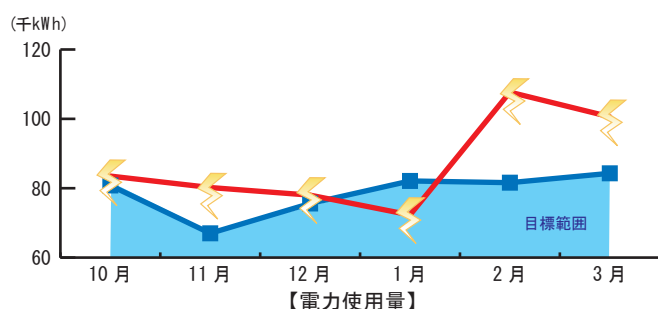
期間内実績値
76.6 千kWh



期間内目標値
25.84 t-CO₂ 以下

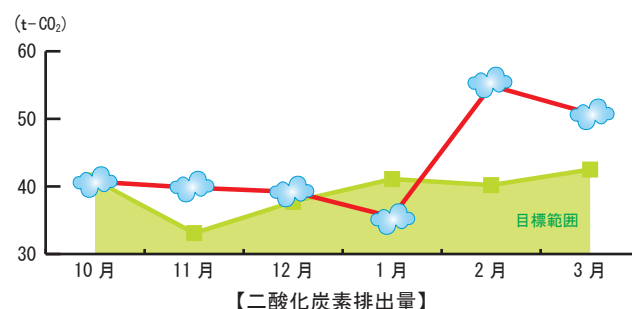
期間内実績値
27.19 t-CO₂

■工場



期間内目標値
471.4 千kWh 以下

期間内実績値
522.1 千kWh



期間内目標値
235.5 t-CO₂ 以下

期間内実績値
261.0 t-CO₂

全体評価と今後の取り組み



【全営業店】

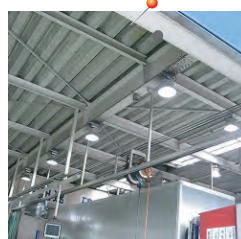
電力の削減に大きく貢献できる照明灯の間引き、エアコンの使用抑制に積極的に努めることにより、削減目標を達成することが出来た。今後も消費電力の低い照明灯の導入を進め、更なる節電への取り組みとする。



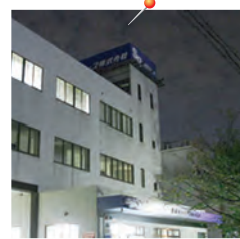
【工場・東大阪店】

未達成となったが、取組初年度でもある為、今後も継続的な使用量削減に努め、目標達成を図る。

■取り組みの具体例



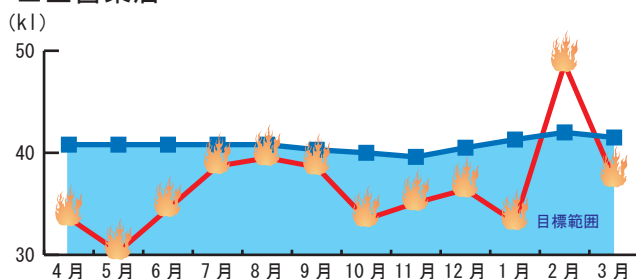
LED照明の活用 P.24



ライトダウンの恒常的な実施 P.24

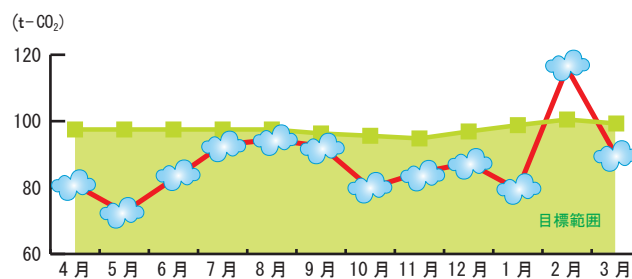
■燃料使用量の削減による二酸化炭素排出量の削減

■全営業店



期間内目標値
489.0kl 以下

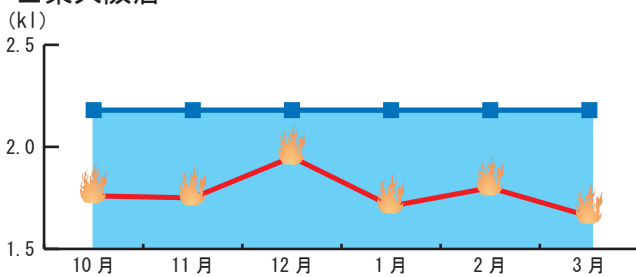
期間内実績値
439.4kl



期間内目標値
1169.4 t-CO₂ 以下

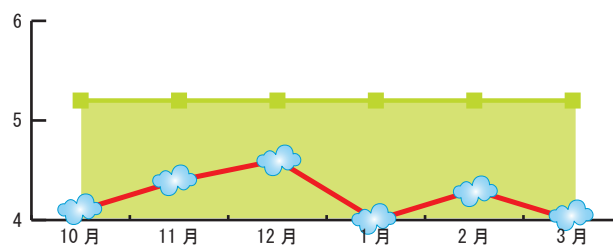
期間内実績値
1052.8 t-CO₂

■東大阪店



期間内目標値
13.1kl 以下

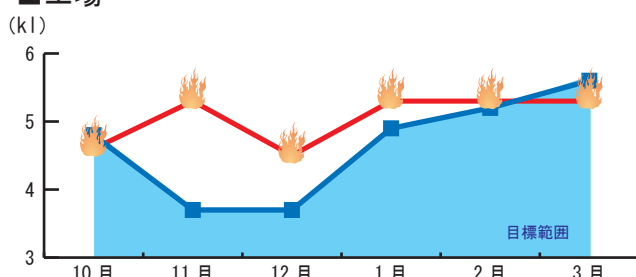
期間内実績値
10.6kl



期間内目標値
31.2 t-CO₂ 以下

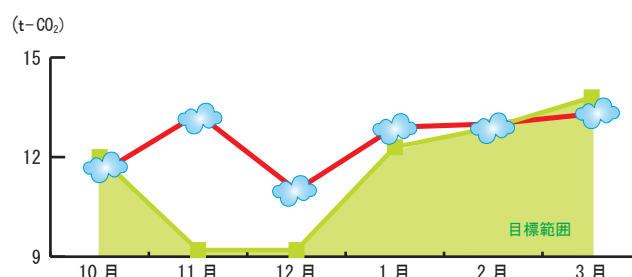
期間内実績値
25.4 t-CO₂

■工場



期間内目標値
28.0kl 以下

期間内実績値
30.4kl



期間内目標値
69.4 t-CO₂ 以下

期間内実績値
75.1 t-CO₂

全体評価と今後の取り組み

【全営業店・東大阪店】



エコ安全ドライブの推進や運転技能講習、並びに教育訓練の実施、マイカー通勤から公共交通機関の活用への移行などに取り組んだ結果、削減目標を達成することが出来た。今後も引き続き運転者の能力向上に努め、削減に取り組むこととする。



【工場】

未達成となったが、取組初年度でもある為、今後も継続的な使用量削減に努め、目標達成を図る。

■取り組みの具体例



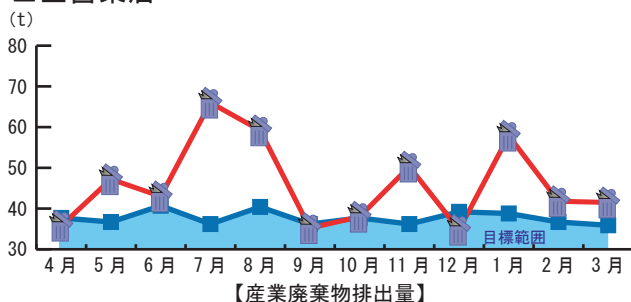
エコ安全ドライブに対する取り組み [P.28](#)



車両のメンテナンス [P.22](#)

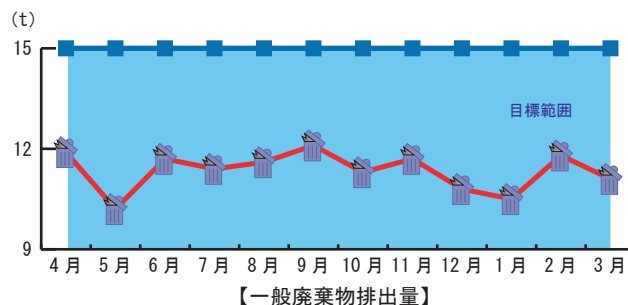
■廃棄物排出量の削減

■全営業店



期間内目標値
452.3 t 以下

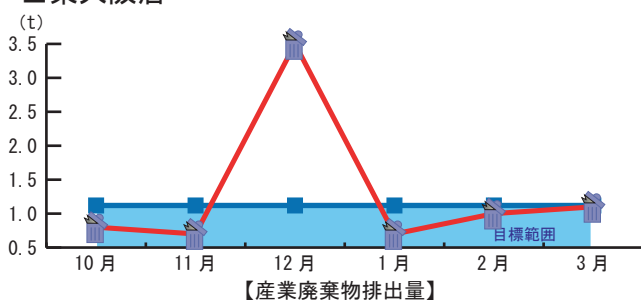
期間内実績値
550.7 t



期間内目標値
180.4 t 以下

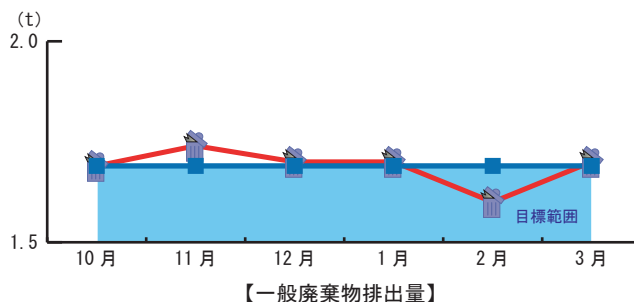
期間内実績値
135.9 t

■東大阪店



期間内目標値
6.7 t 以下

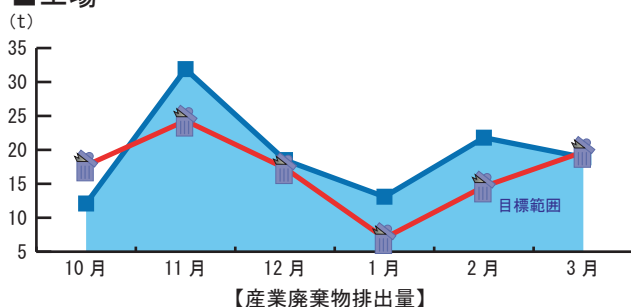
期間内実績値
7.8 t



期間内目標値
10.1 t 以下

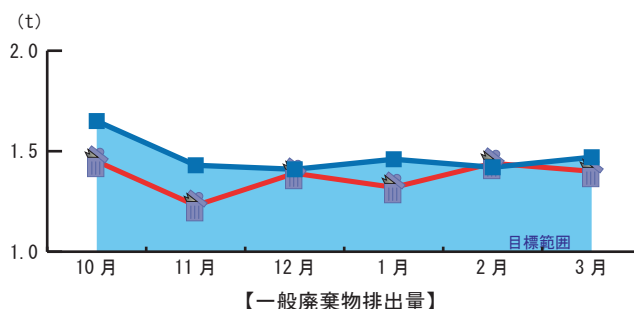
期間内実績値
10.1 t

■工場



期間内目標値
116.3 t 以下

期間内実績値
100.6 t



期間内目標値
8.84 t 以下

期間内実績値
8.23 t

全体評価と今後の取り組み



【全営業店・工場】

ゴミの分別徹底、廃棄物のリサイクルの推進（有価物扱い）に取り組み、月毎の削減を図ったものの、全店の通期では目標未達成となった。削減目標を達成することが出来た。今後もリサイクル活動に積極的に取り組む為、有価物としての取扱種類を増やし目標達成を図る。



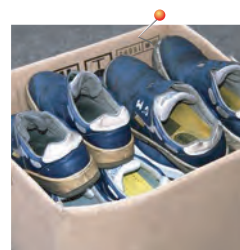
【東大阪店】

未達成となったが、取組初年度でもある為、今後も継続的な使用量削減に努め、目標達成を図る。

■取り組みの具体例



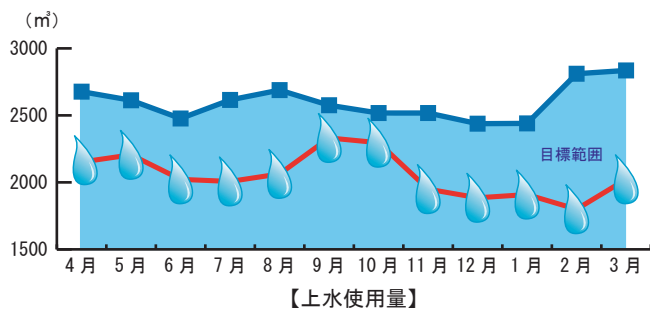
ゴミの分別の徹底 ➡ P.26



安全靴のリサイクル ➡ P.26

■総排水量の削減

■全営業店

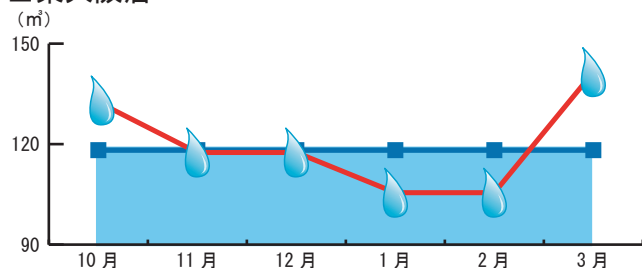


期間内目標値
31,206.1 m³以下

期間内実績値
24,643.5 m³



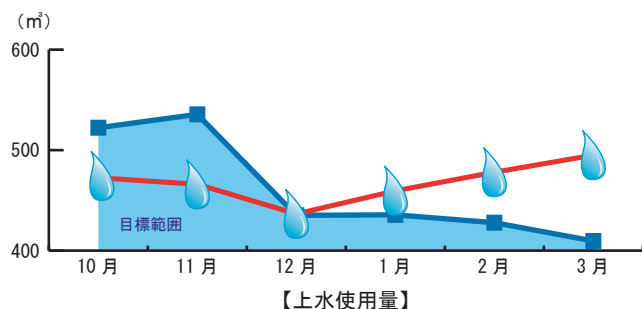
■東大阪店



期間内目標値
709.2 m³以下

期間内実績値
720.0 m³

■工場



期間内目標値
2766.0 m³以下

期間内実績値
2807.5 m³



全体評価と今後の取り組み



【全営業店】

節水への協力を従業員に推し進めつつ、併せて強制的に水量の抑制を行った結果、削減目標を達成することが出来た。引き続き従業員への意識付けを積極的に行い、更なる削減を行うこととする。



【東大阪店・工場】

未達成となったが、取組初年度でもある為、今後も継続的な使用量削減に努め、目標達成を図る。

■取り組みの具体例



雨水利用システム
導入による水の有効利用

P.23

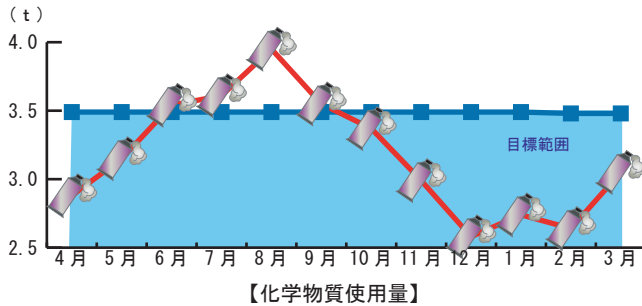


使用水量の抑制

P.24

化学物質使用量の削減

■全営業店

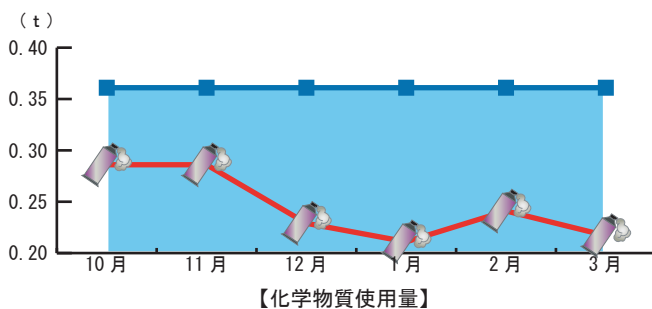


期間内目標値
41.88t 以下

期間内実績値
38.05t



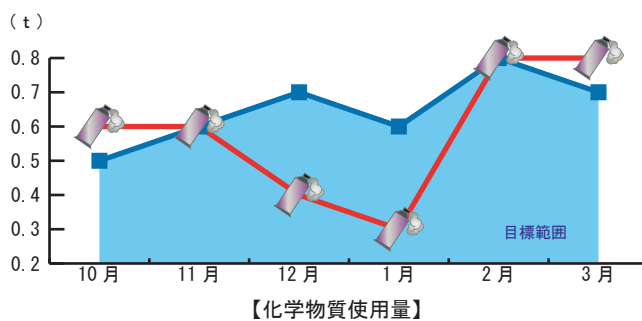
■東大阪店



期間内目標値
2.16t 以下

期間内実績値
1.47t

■工場



期間内目標値
3.9t 以下

期間内実績値
3.5t



■取り組みの具体例

全体評価と今後の取り組み

【全営業店・工場・東大阪店】



塗料使用時の適正管理、塗料の再利用を実施した結果、削減目標を達成することが出来た。
今後、整備上における塗料使用の必要性を再度検討の上、削減を図ることとする。



塗料使用時の適正管理 P22



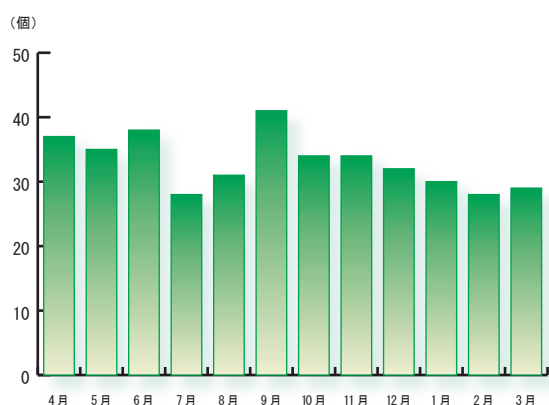
シンナー塗料の再生利用 P26

■グリーン購入の推進

グループで運用している統一の購買管理システムを用いて環境配慮商品の優先的な購入を推進しています。特に購入頻度の高い商品 67 品目をピックアップして促進しています。

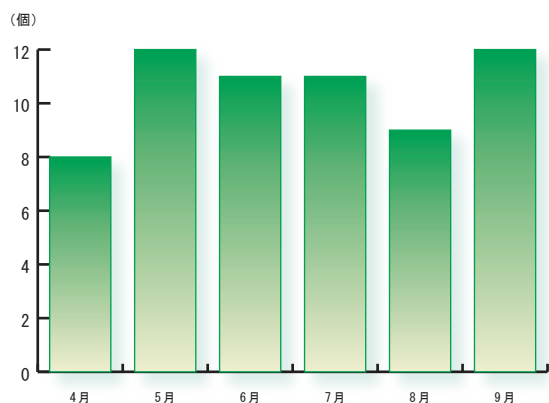
■全営業店（東大阪店含む）

【環境配慮商品購入の推移】



■工場

【環境配慮商品購入の推移】



【グループ統一の購買管理システム】



PPフィルム貼り。●芯材／古紙配合率100%。●と
●この商品はグリーン購入法に適合しています。

その他の取り組みと全体評価



グリーン購入法に適した商品を積極的に選択し、購買システムに登録することで、使用品種・使用量が増え目標が達成出来た。今後も、環境に特化した商品の購入を推進することとする。

■環境啓発活動の推進

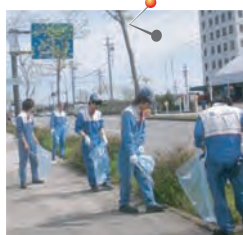
グループ全体で年間を通した環境行動を制定しています。さらに当社ではボランティア清掃の実施や各種団体とのタイアップ活動を行うなど、外部とのコミュニケーション活動も積極的に実施しています



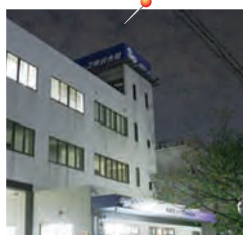
【2011 年度実施項目】

4月	環境行動宣言
5月	クリーンアップデー
6月	環境啓発月間
7月	夏季省エネルギー運動・全国一斉ライトダウンデー
8月	夏季省エネルギー運動・環境絵日記コンクール
9月	夏季省エネルギー運動・フリーアイデア
10月	フリーアイデア
11月	全社一斉ライトダウンデー
12月	冬季省エネルギー運動
1月	冬季省エネルギー運動
2月	冬季省エネルギー運動
3月	環境モデル店コンクール

■取り組みの具体例



クリーンアップデー ➡ P.27

全国一斉
ライトダウンデー ➡ P.24

環境絵日記コンクール ➡ P.27

環境モデル店
コンクール ➡ P.28

その他の取り組みと全体評価



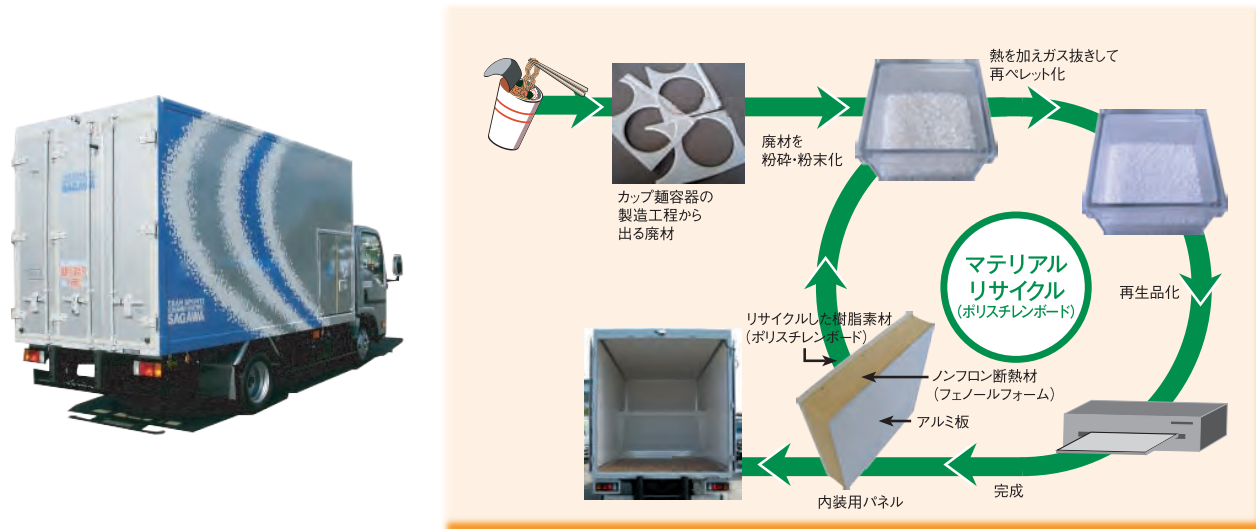
事業内容に即した独自の環境保全活用に加え、SGホールディングスグループ全体で行っている「環境活動」に則り、啓発活動に重きをおいた取り組みも実施した。

環境保全活動には何よりも一人一人の意識が重要であることから、今後も従業員の環境意識の高揚を目的とした取り組みを継続して実施する。

■環境に優しい「ECO車体」の展開

「トラックボディで出来る環境活動」をテーマに「ECO車体」を開発し、企業活動に直結した環境保全活動を実施しています。

◇「ECO車体」が出来るまで



■リサイクル樹脂を使用した内装材

1 台のトラックの製造には、ボディ内装材（前面・側面）に約 64kg の木材が必要です。この木材の使用を少しでも減らすように合板の代わりにカップ麺容器の製造時に発生する廃材を 100%使用した樹脂製の板を採用し、これを内装材として採用しています。

■フロンガス発生を抑制するための断熱材

冷凍・冷蔵車など温度管理が必要なトラックには、断熱性能を高めるためにフロンガスを使用した発泡断熱材が主流で、廃車時にこれらのフロンガスが大気中に放出されることによる環境破壊が懸念されています。

ECO 車体はこの懸念を払拭するため、ノンフロン発泡断熱材を使用し、フロンガスの使用削減と同時に車両解体時のフロンガスの放出を抑制しています。



<内装用パネル>



<ノンフロン発泡断熱材>



<植林材を使った荷台床>

■植林材を使用することによる森林保護活動

無計画な森林伐採による環境破壊が問題視され、最近では適切な管理をされた森林から生産される木材の活用が活発化してきています。

SG モーターズでは、トラック内部の床材用に育成の早いアカシア材を使用しており、「使用する木材は自分たちの手で」をモットーに、このアカシア材の植林に協賛しています。

10-2 車両の開発と整備体制の構築による環境保全活動 ECO MOVE

■環境負荷低減のための技術を搭載したボトラカー「FVV」の開発

2010 年、飲料メーカーが自動販売機などに缶飲料を補充する専用車両「ボトラカー」の製造に新規参入し、独自の環境負荷低減技術を搭載したオリジナルボトラカー「FVV」を開発しました。

■ボディの軽量化

当社オリジナルボトラカーの特長の一つとしてボディの軽量化があげられます。ドアパネルにはウレタン材を挟んだ軽量アルミパネルを採用し、従来のアルミ材のドアと比較して半分程度の重さ（1台あたり 38.76 kg）に抑え



＜軽量鋼材フレーム＞

ました。また荷台を支えるフレームについても従来の鋼鉄より軽量の 2.3 mm 厚の鋼材を使用するほか、フロアの形状に合わせて「Z」字状にすることで、強度を保ちながら必要となる鋼材の量を抑え、従来構造より 30 kg 以上の軽量化を実現しました。

これによりボディ全体の重量を大幅に抑えることができ、走行時における燃料使用量の抑制と二酸化炭素の排出量削減につながります。

■車体のリサイクル率の向上

資源循環が求められる中、自動車についても資源の有効活用が進められています。車両の軽量化を進めるためにボディにアルミ材を多く使用することにより、従来の車両と比較してリサイクル率が大幅に向上しました。気密性を保つためのゴム材などを除けば、ボディの約 80% がリサイクル処理できます。

■庫内灯に LED 照明を採用

多くのトラックの荷台には電球ライトが採用されていましたが、球切れや電力消費を抑えるために LED ライトを採用しています。また従来はドアを開放すると全てのライトが点灯していましたが、FVV では開放した荷室の照明だけが点灯するよう設計されており、双方の効果でより省エネ化を実現しています。



＜庫内 LED 照明＞

■3温度帯管理機能搭載車の開発



当社はグループ企業である佐川急便の車両をすべて製造しています。その中でも普及が著しい冷蔵・冷凍機能を搭載したクール便宅配車両のノウハウを活かして、このたび3温度帯管理機能搭載車を開発しました。コンテナ内部をドライ管理と冷蔵管理（5℃）、冷凍管理（-18℃）の3室を備えた一体構造のため、食品や飲料など配送品ごとに適した管理が可能となり、輸送品の多様化に対応でき、輸送品質の向上が図れます。

またボトラカーに温度管理を導入することで、自動販売機による急速冷却が不要になることから、自動販売機の消費電力を大幅に抑えることも可能となります。

■廃棄車両再生のためのコンバート電気自動車の開発

SGホールディングスグループでは、大型車両から軽自動車まで約 28,000 台の車両が稼働しています。このうち宅配事業で使用される軽四車両は 6,000 台以上を占めていますが、耐用年数に達すると新型車両と入れ替えられ古い車両は廃車として処理されています。

現在、この廃車される軽自動車を電気自動車へコンバートリメイクする取り組みを進めており、2012 年 4 月には、新潟市の朱鷺メッセで開催された「群馬・埼玉・新潟

EV・PHVサミット」に試作車を出展しました。環境にやさしい電気自動車の再生に加え、企業にとって車両コストの削減も見込めることから、多くの来場者に興味を持っていただきました。

※群馬・埼玉・新潟EV・PHVサミット：群馬県・埼玉県・新潟県の3県が、EV（電気自動車）・PHV（プラグインハイブリッド車）の本格的な普及拡大に向けた需要喚起と、コンバートEV（改造電気自動車）をはじめとする電気自動車関連産業の育成を目的に開催したもの



<コンバート電気自動車>



<廃棄車両の再生>

■3輪電気自動車「雷駆T3」専用ボディの開発



2012 年 10 月、株式会社光岡自動車とユアサM&B株式会社が発表した新型 3 輪電気自動車「雷駆 T3」（ライク T3）について、宅配便の集荷・配達に適した専用ボディを開発しました。

「雷駆 T3」は定員 2 名、最大 100 kg の積載が可能な 3 輪電気自動車であり、宅配サービスをはじめとした様々なシーンでの活用が想定されています。

グループ企業である佐川急便では早くから天然ガス自動車の導入を積極的に進めており、さらなる環境配慮型車両の導入に向けた検討を進めていた当社は「雷駆 T3」に開発段階から参画していました。小型から大型車にいたるバン・ウィングボディの他、冷凍・冷蔵車や特装車両など様々なボディ製造の実績があるため、その製造ノウハウを活かして、このたび「雷駆 T3」専用のボディを新たに開発しました。

■「雷駆 T3」専用ボディの特長

- ①積載量を考慮し軽量化を図るため、アルミ材を使用したコンパクトなボディ設計
- ②雨天時の集配を考慮した、オリジナルキャノピー装備
- ③車両並びに歩行人の妨げにならない左サイドオープン荷台
- ④荷台開閉の負担軽減のためのドアダンパーおよびセキュリティ用のキーを装着
- ⑤丸味を帯びた斬新なデザイン



<佐川急便専用ボディ>

10-4 車両の開発と整備体制の構築による環境保全活動

■車両のメンテナンス



<サービスカーのメンテナンス>

エコ車検・エコ整備の普及・促進を通じて、燃料消費量の向上による二酸化炭素排出量の削減や、排出ガスの洗浄化により社会に貢献しています。

また、「エコ安全ドライブ」の徹底を図る為、車両の法定点検ならびに始業前点検はもとより、毎月6日を「通勤車両チェック日」と位置付け、月ごと（季節ごと）に重要項目を決めるなど、車両のメンテナンス強化を図っています。

この取り組みを行うことが従業員の安全運転への意識向上、エコ運転につながっています。

■「通勤車両チェック日」重点項目

4月	タイヤ溝のチェック
5月	シートベルトストッパー取り外しの確認
6月	ワイパーゴムの点検
7月	非常信号用具（発煙筒）の車載
8月	LLC・バッテリー液の点検
9月	窓ガラスおよび車内清掃の徹底
10月	法定点検実施の徹底
11月	タイヤ溝のチェック
12月	携帯電話のドライブモード設定確認
1月	タイヤの摩耗チェックおよび寒冷地のスタッドレスタイヤ装着確認
2月	フロント及び左右のウインドのチェック
3月	法定点検実施の徹底

■塗料使用時の適正管理

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）[※]に従い、指定化学物質の排出、移動量を管理し、自治体経由で国に届け出ており、塗料や溶接材料などを管理対象物としてその削減に努めています。



<硬化剤混入後の塗料>



<シンナーの適量使用>

その他、再利用が出来ない硬化剤が混入した塗料については、一度、凝固させてから排出することにより、健康障害を起こす可能性のある特定化学物質から産業廃棄物として変化させ、環境への負荷を軽減させています。

※PRTR法：有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み。（環境省HPより）

■雨水利用システム導入による水の有効利用



＜洗車水に活用＞

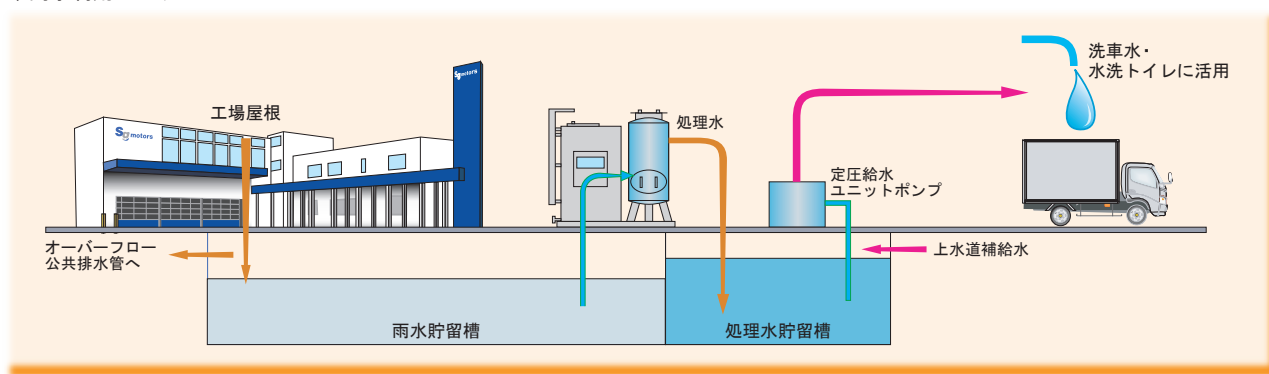


＜トイレ洗浄に活用＞

工場内では洗車等で大量の水を使用します。そのため年間降雨量が少ない高松店では雨水を浄化して洗車用水や工場内清掃用水に活用するシステムを導入しています。

常時 18 m³の雨水を貯留することができ、処理能力は 3 m³/時間。一部はトイレ洗浄にも使用しており、飲料以外の用途に広く活用しています。

◇雨水利用システム



■ 廃水処理システムによる水質保全活動

高松店では工場から排出された排水に凝集沈殿処理（水質保全対策技術のひとつ）を施しています。

その後さらに除去できなかった油や硫黄などを微生物により除去する生物的処理を行い、地域の水質保全に努めています。

1 時間に 400ℓの排水処理能力を有しており、工場から排出される汚水の河川への流出を防いでいます。

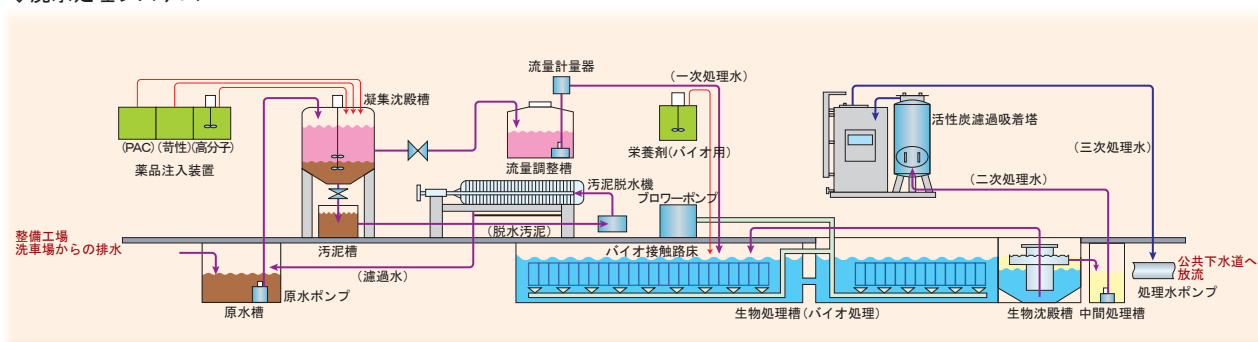


〈凝集沈殿槽〉



＜汚泥脱水機＞

◇廃水処理システム



■廃油を活用した作業場の環境改善

札幌店では、オイル交換時に排出される廃油など、工場内で発生する廃油を再利用するためのシステムを構築し、寒冷時に利用しています。

貯蔵された廃油は燃料として専用のボイラーで使用。さらにその際に発生する熱を工場内の床暖房や構内のロードヒーティング等の積雪対策に活用するほか、温水洗車に使用しています。

新たな熱源を設けず工場内で発生した廃油を活用することにより、資源の循環型処理を実現しています。



<廃油ボイラー>

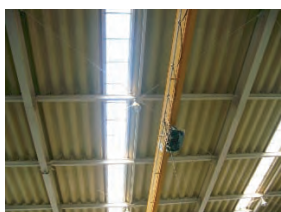
■使用水量の抑制

車両洗浄などで大量の水を使用する事業のため、日常で使用する水量をなるべく抑制できるよう従業員への意識づけのほか、事業所内の手洗場では節水コマ、定量止水栓、自動水栓などを用いた強制的な水量調整を行っています。節水コマを用いることで、これにより1分間に最大で約6リットルの節水が可能となりました。



<節水コマ>

■LED照明の活用



<自然光の活用>

作業現場では天窗などを活用して太陽光を屋内に取り入れ、日中の照明の使用時間の短縮を図っています。加えて蛍光灯からLED照明への切り替え導入も順次進めており、双方の取り組みにより現場の電力使用量の削減に取り組んでいます。埼玉店では工場の照明をLED照明に切り替えたことで店全体の電気使用量が前年対比で約14%削減できました。

LED照明は少ない電力で従来の照明と同等の明るさを維持することができるため、細かい作業が多い自動車整備の現場でも導入することができます。

その他、二酸化炭素の排出量削減はもとより、長寿命のために器具交換作業に伴うコストの削減、さらに放熱が少ないことから夏場の工場内の温度上昇も抑えられ、作業環境の改善にもつながっています。



<作業場内LED照明>

■ライトダウンの恒常的な実施

全国の支店・工場で看板照明のライトダウンを実施しています。この取り組みは「SGホールディングスグループ環境行動」の「全国一斉ライトダウン」を契機に開始したのですが、現在では期間を設けずに終日実施しています。



<点灯時>



<消灯時>

■エコユニフォームの採用

SGホールディングスグループは、環境負荷低減に貢献する製品を積極的に購入する「グリーン購入」を推進しています。その一環として当グループのユニフォームにはペットボトルを再利用した再生ポリエステルを使用したエコマーク認定品を採用しています。

2011年度はグループ全体で長袖45,578着と半袖38,962着の合計8万4,540着のユニフォームを製造しました。これは約33万1,750本のペットボトルを再利用したことになります。

また、使用済みユニフォームでリユースが困難なものは、制服管理センターで回収後、中間処分場にて破碎処理・ペレット化を行い、製鉄所の高炉還元剤としてリサイクルしています。

◇エコユニフォームが出来るまで



■使用済み現場作業服のサーマルリサイクル



＜使用済み現場作業服＞

当社で使用した現場作業服はサーマルリサイクルとして燃料化し、熱エネルギーとして再利用しています。リサイクル業者で商品ごとに分別した後、金属類などの不燃物を除去し、細かく破碎して減溶・圧縮。特殊処理を施した後、固形燃料化して特殊ボイラーで燃焼させ、熱エネルギーとして使用します。サーマルリサイクルを行うことで石炭を使用した場合と比較して、二酸化炭素排出量を約70%削減出来ています。また、これまで廃棄物でしかなかった使用済み現場作業服を熱エネルギーとして再利用することで、ゴミの減量化にもつながっています。

その他、取引先とカーボンオフセット契約を締結し、温室効果ガスの削減にも取り組んでいます。

◇サーマルリサイクルとカーボンオフセット



12-2 資源の有効活用と循環型社会を目指した取り組み

■ゴミの分別の徹底

当社では、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を削減し、限りある資源を有効に活用する循環型社会を目指すため、ゴミの分別を徹底（ペットボトル・缶・びん・紙類の分別）し可燃ごみの削減に取り組みました。特に紙類の排出量を減らすため、「コピー用紙削減運動」としての一斉取り組みや紙類の分別徹底（古紙のリサイクル）などを行った結果、一般廃棄物を前年比 55%削減することが出来ました。



＜ペットボトル・缶・びんの分別回収＞

■安全靴のリサイクル

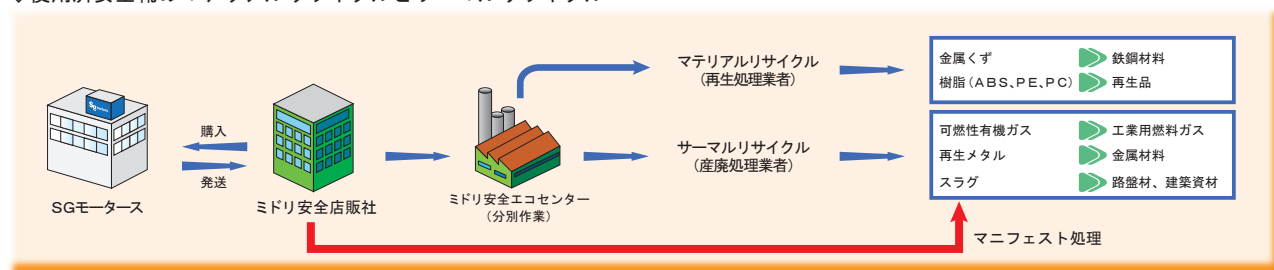


＜使用済安全靴＞

現場で作業を行う際には重量物などから足を守るために安全靴の使用を義務付けています。安全靴はつま先部分や中底が鋼板で出来ており、部分ごとに廃棄方法が異なります。金属類は切断・碎後、製鋼原料化され、廃プラスチック類は燃料としての熱エネルギーや、熔融解処理後スラグ化され路盤材などになります。

当社ではミドリ安全(株)が実施するゼロエミッションシステムに基づき、材質によってマテリアルリサイクル・サーマルリサイクルを行うことにより、安全靴の 100% 再資源化を図っています。

◇使用済安全靴のマテリアルリサイクルとサーマルリサイクル



■シンナー塗料の再生利用

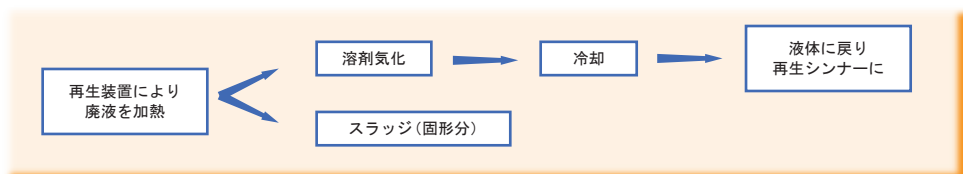
自動車整備の現場ではシンナーをはじめとした有機溶剤を使用することが多く、また余った塗料やシンナーは引火性の危険物でもあるため、無駄なく使用出来るよう使用前に適正量を測っています。

また、使用後の廃液シンナーも、不純物を取り覗いた後再生装置にかけ、再生シンナーとして再利用しています。



＜部品洗浄機＞

◇シンナー再生までの流れ



さらに車両整備時の部品洗浄にはシンナー塗料の代わりに部品洗浄機を使用し、使用の抑制に努めています。

■グリーン購入大賞の受賞

2009年11月6日、北海道札幌プリンスホテルで行われたグリーン購入ネットワーク主催の「第11回グリーン購入大賞」において、ECO車体の開発が評価され「優秀賞」を受賞しました。



<第11回グリーン購入大賞 表彰式>

また、滋賀県と滋賀グリーン購入ネットワーク主催による「環境コミュニケーション研修」において、ECO車体の開発をはじめとする当社の環境保全活動についてグリーン購入の普及・啓発に取り組む事業者に対して講演を行いました。

※グリーン購入大賞：

環境に配慮した製品やサービスを優先的に購入する「グリーン購入」の普及拡大に取り組む団体を表彰することにより、一層の取り組みを奨励するとともに、活動事例の紹介を通じてグリーン購入を普及させることを目的とした表彰制度。



<社長 谷本育生による講演>

■クリーンアップの実施



<クリーンアップ活動>

一人ひとりの環境保全（ゴミ問題）に対する意識向上を図るとともに、地域との連携を高めながら地域の美化推進に貢献することを目的に支店ごとにクリーンアップ活動を実施しています。

「SGホールディングスグループ環境行動」で義務付けられている年2回の実施に加え、本社では大阪市へボランティア清掃として登録し、毎月実施しています。

■環境絵日記コンクールの実施

「SGホールディングスグループ環境行動」の一環でグループ社員の子どもたちを対象にした環境絵日記コンクールを実施しています。

夏休みを利用して家族や地域で行った環境活動を子どもたちと絵日記に表わすことで、家族で地球環境について考える機会を持ち、環境保全に対する意識の高揚を図ることを目的としています。

◇これまでの応募作品の一部



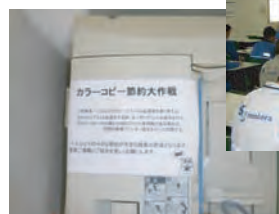
■環境モデル店コンクールの受賞

グループ全事業所を対象に環境保全活動が他の模範となる事業所を表彰する「環境モデル店コンクール」において、2010年度の最優秀事業所として表彰されました。2007年度から4年連続の受賞です。

当社の取り組みは新たな設備を導入して実施するのではなく、従業員一人ひとりの意識の向上を目的として事業所ごとにそれぞれ取組内容を定めて実施しています。

- ①取り組み内容を考えること
- ②どのようにすれば周知されるかを検討すること
- ③結果を確認すること
- ④ステップアップのための行動を起こすこと

これらPDCAサイクルを用いた地道な取り組みの継続が、この度の4年連続の受賞に結びつきました。



＜カラーコピー削減のための啓発活動＞

＜CSR活動についての勉強会＞

■お客さま向け省燃費研究会の開催



＜テストコースでの実走行＞

大型車両をはじめとする貨物自動車は排ガス規制などをクリアした最新の技術による新型車両が販売されていますが、いくら優秀な機能を備えても運転技術が悪ければ低燃費で効率的な運転とはなりません。そこで、クルマの機能をより理解し、地球にやさしいエコ運転・安全走行を普及させるため、毎年約100名のお客さまをお

招きして北海道勇払郡むかわ町にあるいすゞ自動車(株)のテストコース（(株)ワークム北海道）で、省燃費研究会を開催しています。

日頃大型トラックを運転されているお客さまに、現在の燃費をさらに下げするための運転方法などを講義と実際にテストコースを走行していただくことで習得していただき、さらなる運転技術の向上を目指していただきます。



＜車両構造の説明＞

■エコ安全ドライブに対する取り組み

安全意識を高め、急加速や急発進・急停止を発生させないなめらかなやさしい運転を心がけることで、安全性の追求、環境にやさしい運転による環境保護、資源保護、コスト低減など「安全」「環境」「経営」に様々な効果が期待される「エコ安全ドライブ」を推進しています。中でも特に重要とされる7項目を「エコ安全ドライブ7ヶ条」と定め、ポスターの掲示や朝礼時の唱和などを通して



＜運転シミュレータを用いた運転技術指導＞

全従業員に啓発しています。
また営業店では地域の交通安全課による安全講習の実施や運転シミュレータを用いた運転技術指導を定期的に行うことにより、普段の運転で現れるクセや注意点を発見し、事故の未然防止に努めています。

◇啓発ポスター

SGモーターズ株式会社 エコ安全ドライブ 7ヶ条	
1	「ふんわりアクセル(εスタート)」の実施 急発進・急加速による燃費の悪化、騒音の発生を抑制し、乗客の快適性を確保します。 アクセルをゆっくりと踏み込み、エンジン回転数を2000rpm程度に維持し、徐々に加速します。
2	無用な急制動の禁止 急制動による燃費の悪化、乗客の不安、ブレーキの摩耗を抑制します。 アクセルをゆっくりと踏み込み、エンジン回転数を2000rpm程度に維持し、徐々に減速します。
3	法定速度に準じた、定速走行での運転 法定速度に準じた定速走行による燃費の悪化、騒音の発生を抑制し、乗客の快適性を確保します。 アクセルをゆっくりと踏み込み、エンジン回転数を2000rpm程度に維持し、徐々に加速します。
4	十分な車間距離の確保 十分な車間距離を確保することにより、急制動による燃費の悪化、乗客の不安、ブレーキの摩耗を抑制します。 アクセルをゆっくりと踏み込み、エンジン回転数を2000rpm程度に維持し、徐々に減速します。
5	早めのアクセルオフでエンジンブレーキの活用 アクセルを早めにオフし、エンジンブレーキを活用することにより、燃費の悪化、乗客の不安、ブレーキの摩耗を抑制します。 アクセルをゆっくりと踏み込み、エンジン回転数を2000rpm程度に維持し、徐々に減速します。
6	駐車時は、キーを抜く(エンジン停止)の励行 駐車時は、キーを抜くことにより、燃費の悪化、乗客の不安、ブレーキの摩耗を抑制します。 アクセルをゆっくりと踏み込み、エンジン回転数を2000rpm程度に維持し、徐々に減速します。
7	日常的な点検・整備と空気圧管理 定期的な点検・整備と空気圧管理による燃費の悪化、乗客の不安、ブレーキの摩耗を抑制します。 アクセルをゆっくりと踏み込み、エンジン回転数を2000rpm程度に維持し、徐々に減速します。

■被災地へのトラックの寄贈

東日本大震災からの復興に役立てていただくため、宮城県仙台市と石巻市、岩手県釜石市および大槌町に合計 13 台の車両を寄贈しました。

すでにグループとして取り組んでいる義援金の寄贈や被災者の優先雇用のほか、車両整備を生業とする企業として企業活動に沿った支援を検討し、被災地域の自治体の意見を参考にした結果、この度の寄贈を行うことになりました。



＜四輪駆動の小型軽自動車＞



＜荷台がダンプ仕様の軽トラック＞

がれきなどの撤去作業の際に、大型重機などが入り込めない狭い地域で使え、さらに効率よく運搬できる荷台がダンプ仕様の軽トラックや、庁舎で使用していたほとんどの車両を震災で失ったことも考慮し、職員の移動に使っていただけるような四輪駆動の小型軽自動車などを寄贈しました。今後も寄贈したトラックの無償点検整備など、当社として出来る支援を積極的に実施してまいります。



＜気仙沼市への寄贈＞

右：気仙沼市 加藤慶太副市長 左：SGモーターズ社長 谷本育生

■「移動式ちびっ子SGランド」の開催

震災で遊び場を失った子どもたちに元気と笑顔を取り戻してもらおうと、8月より「移動式ちびっ子SGランド」を開催しています。

3月の震災以降、日が経つにつれ被災地が必要とする支援も徐々に変化しています。地震発生後しばらくは直接生活に結びつくような支援活動を重点的に行ってきましたが、これからはソフト面からの支援も必要なのではないかと考え、「移動式ちびっ子SGランド」を計画しました。



＜当社工場で製作したオリジナル電動カート＞

「いろんなところで」「多くの子どもたちが」「自由に遊べ」「楽しめる」方法として計画した、この「移動式ちびっ子SGランド」は、当社の工場で製作した電動カートや射的ゲームなど合計11種類の遊具と駄菓子店を専用の大型トラックに積載し、各地を訪問するものです。

これまでに合計6回開催しており、いずれの会場もオープンと同時に多くの子どもたちが来場して元気な笑顔を見せてくれました。



＜宮城県七ヶ浜町「セー浜国際村」での開催＞

■車両整備技術研修生の受け入れ

※
(財)佐川国際経済協力会の事業の一つである車両整備技術研修に協力し、1987年から現在までにおよそ100名の中国からの研修生の受け入れを行っています。約2ヶ月にわたる日本の高度な車両整備技術の研修により、自動車整備を通じた日中交流を実施しています。



<修了証授与式>

※(財)佐川国際経済協力会：

1986年に設立され、中国をはじめとした開発途上国と日本の友好親善を目的として、中古トラックの寄贈と車両整備技術研修生の受け入れ事業を実施。

これまでに中国に3,000両、モンゴル102両、ペルー150両、ラオスに53両の中古トラックをそれぞれ寄贈。3月にはアフリカのマラウイへトラック2両を寄贈した。



<車両整備技術研修>

■自動車整備業界の人材育成支援活動

車両整備業界のさらなる発展と学生の技術向上を目的に、自動車整備専門学校の高山自動車短期大学に対し、整備場所の提供や車両の運搬などさまざまな支援活動を行っています。

高山自動車短期大学は、自動車工学科の教育で秀でた実績を持つとともにモータースポーツを専攻プログラムに取り入れるなど、ユニークなカリキュラムで知られています。なかでもWRC（世界ラリー選手権）へは、強豪チームに混じり学生のためのチームとして毎年参加し、2010年の大会では連続15回の完走を称え、「最もWRCを盛り上げ、かつ観客の注目を集めた」としてラリーが盛んなアブダビ国から贈られるアブダビ・スピリット・オブ・ザ・ラリー賞の特別賞も受賞しました。

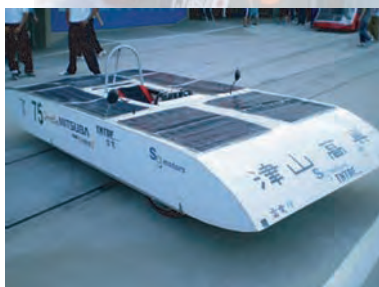
当社には高山自動車短期大学からの卒業生20人が現在メカニックとして在籍しており、それらの縁もあって2010年からワークショップとして競技車両、※
※ レッキ車2台と機材の搬送、また競技車両の整備場所、施設、設備の提供などでWRC参加の支援を行っています。



<高山自動車短期大学のラリーカー>



<施設・設備の提供などで支援>



<津山工業高等専門学校のソーラーカー>

また、自動車の新しい動力源となりうる電気エネルギーの基礎的な知識の習得と人材の育成を図ることを目的に、岡山県の津山工業高等専門学校のソーラーカー製作にも協力しています。

※レッキ車：レース仕様と同様の試走車

“エコアクション 21” の取り組みを開始し、1年が経過しました。2 年目となる平成 23 年度は目標達成に向け、従業員が一丸となり、様々な活動に取り組んだ結果、全事業所にて目標を概ね達成することが出来ました。

平成 23 年度は、初年度の本社及び 12 支店から 1 支店を追加取り組みました。目標値・環境活動計画とも、追加した 1 支店が取り組みの初年度であることから、全国同一としました。その結果、支店により達成度合いにバラつきが見受けられました。当社は、北海道から九州まで点在しているために地域的な事情も異なることから、今後は支店ごとに取り組みを強化し、支店ごとに環境目標と活動計画の見直しを図ることがより現実的と考えます。

また、平成 24 年度より 4 工場の取り組みを新たに開始しました。初年度でもある為、目標達成が難しいと思われましたが、上半期の結果では、目標値を達成することが出来ました。

その他、グリーン購入と環境配慮活動については、より積極的な当社の環境に対する姿勢を示すアイテムである為、新たな取り組み項目を検討課題とします。

SGモータース株式会社
代表取締役社長 谷本 育生



IPSuS

ea エコアクション21
認証・登録証

認証・登録番号 0007737

認証・登録事業者 **SGモータース株式会社**
本社及び支店
大阪府大阪市大正区平尾 1-4-38

事業活動 自動車整備・自動車販売・損害保険代理

対象事業所 本社、本社営業部、札幌店、仙台店、埼玉店、東京店、福岡店、南東京店、中京店、金沢店、大阪店、南大阪店、高松店、広島店

認証・登録日 2011 年 11 月 22 日

有効期限 2013 年 11 月 21 日

上記事業者は「エコアクション21ガイドライン2009年版」(環境省)の
要求事項に適合していることを証します。

一般財団法人 持続性推進機構
理事長 郡 篤孝

